

「古墳時代における都市化の実証的比較研究—大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地」

第1回研究講演会

『難波宮前の上町台地の都市化—とくに物資(木材等)の需給から』

都市の成立は人間の歴史の一大画期です。のちに難波宮がおかれる大阪上町台地の北部、比恵・那珂遺跡群などがある博多湾岸、政治拠点が分立する奈良盆地は、日本列島で他に先駆けて都市化がすすむ特異な場所です。本研究は、三地域の比較研究により、発掘資料からいかに都市化の過程を実証的に明らかにできるかをめざします。

その第一段階として、まず、難波宮前夜の大阪上町台地北部の都市化に関する研究の現状を報告します。都市は周辺の支えがあってはじめて存立できます。食料をはじめ様々な必需物資の調達の工夫こそ、都市化の肝といえるでしょう。都市をかたちづくる多くの建物・施設の建造の前提には、建築資材(木材や屋根材等)の供給があります。今回はこの点についても、木材利用研究の第一人者である樋上昇氏の講演を基に、研究を深めます。

研究者はもとより、考古学や歴史に関心のある多くの方々のご参加をお待ちします。

~~~~~

趣旨説明

(12:30-12:35)

講演「樹木と暮らす古代人—木材資源の流通から考える『都市化』の要件」

樋上 昇 ((公財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター)

(12:35-

13:55)

報告1「奈良盆地における木材の生産・流通・消費」

(13:55-14:35)

青柳泰介 (奈良県立橿原考古学研究所)

報告2「上町台地の都市化と難波屯倉の建物群」

(14:50-15:30)

南 秀雄 ((公財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所)

報告3「大阪地域における先史・古代の木材獲得と流通」

(15:30-16:10)

大庭重信 ((公財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所)

報告4「手工業生産からみた上町台地の都市化」

(16:10-16:50)

杉本厚典 (大阪歴史博物館)



日 時 : 2017年2月4日(土) 12時30分~16時50分 (12時開場)

場 所 : 大阪歴史博物館4階講堂 (大阪市中央区大手前4-1-32 TEL.06-6946-5728)

定 員 : 250名(当日先着順)

参加費 : 無料

主催・問合せ : 大阪文化財研究所 (TEL.06-6943-6833)

本会は、科学研究費補助金基盤研究C「古墳時代における都市化の実証的比較研究—大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地」(研究代表:南秀雄)によるものです。